

闘 春

「共同する闘い」



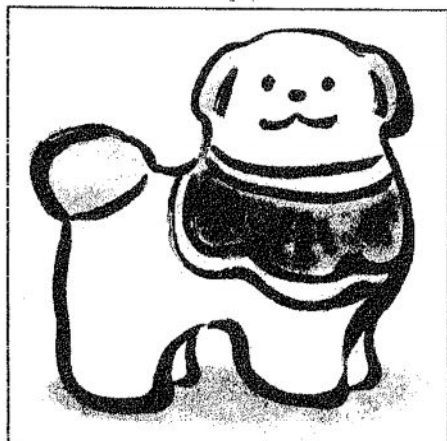
NO. 558

発行
2006年
/ 月 / 日
国鉄労働組合
新潟地方本部
発 行 員
守 橋 久 仁 雄
編 集 部
教 室 部

を 強めよう

国鉄労働組合 新潟地方本部

執行委員長 守橋久仁雄



偽装マンション騒動で新年を迎えた。小泉内閣が『構造改革』として進めてきた『新自由主義』の経済路線。自民党が先の総選挙で圧勝したことで、その流れを生活分野の全てで強めている。しかし、暮れの各世論調査では小泉内閣支持率は60%前後。支

持理由のトップは『実行力』の評価、次いで『他に適当な人がいない』などである。

政治・経済ともに閉塞感が強く、なんとか打開してくれそうな内閣をと期待する気持ちの現われとも受けとれる。問題は、何を実行し、またはしようとしているのかであろう。特有の小泉パフォーマンスと問題の核心に目を向けさせない手段が残念ながら功を奏しているように思える。

所得税増税と消費税増税で新たに24兆円もの国民収奪が計画中である。乾いたタオルを絞るがごとくの社会保障制度の改悪。いま非正規社員の増大とともに、公務員攻撃が激しい。国民の中に『対立』と『分断』を持ち込み、言われるところの『勝ち組・負け組』を意図的に作っているのである。この小泉『改革』が財界との『完全共闘』のもとで強行されていることが許せない。憲法9条を守る闘いは、草の根的広がりを見せている。『二大政党制』をめざす、一方の民主党の言動も許せない。絶対に負けられない闘いである。

先頃、筑紫哲也さんとのテレビ対談のなかで、中曽根元首相は『国鉄民営化は成功した』『小泉政権は国鉄分割民営化と小選挙区制を基盤にして、今日ある』と得々と語っていた。闘う部隊の掃討作戦は、総評がなくなったことで一定の成果を収めた。しかし、小泉政権の行き詰まりのなかで国民・労働者との矛盾を噴出している。現実には、平和の危機を増大させ、くらしの切実な願いは切り捨てられ、より深刻な状況が目の前に広がっている。

大惨事となったJR福知山線事故もしかりであろう。取り返しのつかない犠牲者を生み、今も苦しみの中にある。全面的な原因解明は継続中であるが、背後要因の一つに自公政権がすすめてきた市場原理第一主義と民営化・規制緩和と万能論による安全軽視が指摘されている。

企業が社会的信頼を失ったとき、そこに働く労働者の苦しみと同時に、回復にどれほどのエネルギーを注がなければならないか、前例を見てきた。

輸送の『安全・安定』は労働組合としてしっかり取り組むべき課題である。そして何よりも大切なことは、これが日常的に提起・指摘できる公平・公正な労使関係が確立されてこそにある。

1047名の闘いを含め、課題ごとに要求を鮮明にして戦線を広げる共同の闘いが、今こそ重要なときはない。共に力を合わせよう。

2006年